渋谷区
Shibuya City

DIG SHIBUYA

Press Release

令和8年10月27日

報道関係各位

渋谷区、SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会

テクノロジーとアートのイベント “DIG SHIBUYA 2027”

国内外12団体の連携プロジェクトを発表

“世界中のクリエイティブテックスタートアップの滞在型プログラム”も同時開催



渋谷区(区長：長谷部健)は、SHIBUYA CREATIVE TECH 実行委員会(所在地：東京都渋谷区、実行委員長：大西賢治)と共催で、令和9年2月に11日(木・祝)から2月14日(日)までの4日間開催するテクノロジーとアートの最新カルチャーイベント“DIG SHIBUYA(ディグシブヤ) 2027”を開催します。この度連携プロジェクト“Co-Creation Project”の公募を行い、国内外計66件の応募の中から厳正な審査を経て採択された12団体を発表します。

大きな転換期を迎えている渋谷の街そのものを“Urban Living Lab”と位置付け、先端技術とアートを掛け合わせた実証実験のアイデアを募集しました。日本をはじめ、アジア、欧州、北米、中南米など世界各地から届いた応募の中から、AI、ロボティクス、AR/VRなどを活用し、都市の在り方や伝統工芸、アート表現の新たな可能性を探る12プロジェクト(国内10団体・グローバル2団体)を選出しました。開催期間中は、渋谷公園通りをはじめとする渋谷の都市空間や商業施設などを舞台に、各プロジェクトが展示やパフォーマンスとして展開されます。

また、本年も各国からクリエイティブテックスタートアップを渋谷に招へいします。国内のみならず、グローバルで活躍するクリエイティビティを体感いただけます。

公募審査員の選定におけるコメント 敬称略



-久納 鏡子

今回で4回目の開催になりますが、年々、国内外から多様で優れたプロジェクトの応募が増えていることにDIGと渋谷への期待を感じています。作る人も体験する人も渋谷で起こる実験を通して、一緒に未来を考え・つくっていく、そんな4日間になることを楽しみにしています。



-鈴木 貴歩

今年の採択プロジェクトは、審査をさせてもらった時に街の”奥行き”がグッと広がるイメージをもてるものばかりでした。音楽を全面に出したものあり、今から楽しみです。

【報道関係の方からのお問い合わせ先】
SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会： pr@digshibuya.com ／担当:寺西

連携プロジェクト “Co-Creation Project” 採択 全12団体

本年は、久納 鏡子 氏（アーティスト / アルスエレクトロニカ・アンバサダー）、施井 泰平 氏（スタートバーン株式会社 CEO）、鈴木 貴歩 氏（ParadeAll株式会社 CEO）、豊田 啓介 氏（建築家 / 東京大学生産技術研究所 特任教授 / NOIZ）、林・小野 有理 氏（一般社団法人渋谷国際都市共創機構 理事 / 有理舎 主宰）の5名の選定委員による審査を経て、計66件のエントリーから採択された12団体です。

*団体名はアルファベット順

団体名	プロジェクトタイトル/概要
Echo Avenue	≪Echo Avenue in Shibuya≫ ARによって都市空間をライブステージへと拡張する路上ライブプロジェクト。「都市風景を演奏する」をコンセプトに、街並みや地域固有の歴史・文脈を楽器のサウンドやAR表現に取り入れます。DIG SHIBUYAでは、再開発で変化し続ける渋谷の街の姿を音楽とARによって立ち上げます。
egoGraphica by ArtFanders + 有限会社金沢アトリエ	≪108 Dialogue/1 PARTY(仮)≫ 渋谷・神南の街を舞台に、新進気鋭のアーティストの作品を巡り、作家の思考を学習したAIエージェントと対話する参加型アートプロジェクト。街に108の対話が生まれた瞬間、AIが自律的にピザを注文。デジタルな対話から、リアルなパーティーがはじまります。
GhostRob Collective	≪ECHOES BETWEEN STEPS≫ 能の所作と月・東京湾の潮汐データをもとに、二足のロボット足袋が空間を舞います。二足の足袋の間に見えない身体の気配が生まれ、観客の想像によって完成する作品です。
GLITCHRAVE	≪渋谷新生物図鑑≫ 参加者が生み出した「新生物」を仮想渋谷空間に放ち、街を歩き、出会い、場所の記憶を受け継ぎながら新種へと枝分かれをしていきます。誰も見たことのない「渋谷の生態系」と、その図鑑が生まれていく過程をみんなで観測する参加型アートプロジェクト。
Nexel	≪ぴくせる水墨画®≫ 墨と筆だけで、ドット絵を描く。「ぴくせる水墨画」は、デジタルの最小単位であるピクセルを、一マスずつ手で置いていく作品です。本展では和室に、手描きの掛け軸とデジタルのアニメーションを対として展示します。離れれば水墨画、近づけば一マスずつの筆跡。見る距離で作品の表情が変わる空間をつくります。
Rebecca Merlic by CONTRAST	≪The City as a House: SHIBUYA≫ 都市をひとつの「家」と捉え、都市に分散するさまざまな生活の場や機能をデジタル空間に再構成するインタラクティブ作品。渋谷で新たに撮影・3Dスキャンした素材を加え、変化し続ける都市と暮らしの関係を、ゲームと3Dプリント作品を通して体験する、デジタルとフィジカルを横断したインスタレーションです。
RI-CO	≪MONO-SOLUM≫ RI-COは、役割を終えた備前焼の陶片を再生し、新たな価値を生み出すブランドです。今回展示する「MONO-SOLUM」は、再生した陶片を再び窯で焼成し、備前の土が内包する時の記憶と唯一無二の表情をアートとして表現するプロジェクトです。土が辿ってきた長い時間と、過去から未来へとつながる物語を作品に託しています。
SnoezeLab.	≪Shibuya 7-Senses Re-creation　マルチセンサリー × デジタルで拡張する都市と個人の記憶（仮）≫ 人間の持つ「7つの感覚」を刺激する体験型展示を3つのゾーンで展開。XR技術と振動・風・香りの各デバイスを連動させるイマーシブ体験、日芸生によるフィジカルな表現により、個人の体験を再構築。さらに、センサリールームを開放し、すべての人に開かれたウェルビーイングな都市文化の社会実装を目指します。
studio for narrative spaces, picture rhythm studios	≪NONHUMOTION：変容する都市≫ 欲望、親密さ、社会的コミュニケーションといった人間の営みをテクノロジーに頼るようになるにつれ、私たちは無生物の中に人間らしさを見出す生来の能力を活用するようになります。この展は、気候変動と人口変動の未来において、テクノロジーが伝統的な人間の精神的な行動の代用品となる未来を描いています。
timespace	≪SHIBUYA｜ZINE 2027≫ 渋谷を3日間、雑誌にする。街を歩く人が見つけた風景を撮影すると、AIがその場所の歴史や文脈を読み解き、記事に仕立てます。集まった多様な視点を人の手で編み直し、

【報道関係の方からのお問い合わせ先】
SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会 ： pr@digshibuya.com ／担当：寺西

	毎日一冊の「SHIBUYA｜ZINE」として、会場でその日のうちに発行する参加型の都市編集プロジェクトです。
菅野創＋米澤拓郎＋興野悠太郎	≪Fragmentations of Unity≫ 天井から吊られたチューブ型ロボット群によるキネティック・インスタレーション。各個体は独立して昇降・回転し、内蔵LEDで発光します。群れは事前計算のコレオグラフィを同期再生しつつ、時に人を認識してその方を向いていく。プリミティブな形状ながら意思を感じさせる筒たちに、観客は自らの内なる個と群れの経験を投影します。
東京大学 筧康明研究室	≪Living Lens≫ 光源から発せられた光が、水滴を通り抜けて床に像を落とす。その光の像は静かにうねり、揺れながら、かたちを変え続けます。本作品で「レンズ」として作用する水滴は、透明なプレートの上で電気的に制御された軌道に沿って動きながらも、水という素材がもつ柔らかさや不安定さをまとい、有機的な振る舞いを表現します。

クリエイティブテックスタートアップ滞在型プログラム「Creative Tech Shibuya 2027」



渋谷区のスタートアップ支援事業「Shibuya Startup Support」とのコラボレーションとして、本年もグローバルに活躍するクリエイティブテックスタートアップを対象とした5日間の滞在型イノベーションプログラム「Creative Tech Shibuya 2027」を実施します。本プログラムでは、①ナイトタイムエコノミー、②カルチャー＆エンターテインメント、③トラベルの3分野を重点テーマとし、日本進出および渋谷の都市空間を活用した実証実験の展開を目指すスタートアップが来日。国内企業・投資家・クリエイターとのビジネスマッチングやスタートアップピッチ・プロダクト展示、ワークショップを行います。

本プログラムに参加するスタートアップに加え、スタートアップとの協業や実証実験に関心のある企業の皆さまはぜひ、ご連絡ください。

［昨年の様子］





［令和8年の来日スタートアップ実績（一例）］

- Brainspoke（シンガポール）：脳波計測とAIを活用し、ストレスや集中状態を可視化するウェアラブルデバイスを開発。メンタルウェルネスとパフォーマンスの向上を支援する。
- Happaning（イギリス）：イベント参加者が撮影した動画を収集・活用し、ブランドやフェスティバル、文化施設のSNS・広告施策につなげるマーケティングプラットフォームを提供。
- REALDRAW（韓国）：生成AIと3D技術を活用し、クリエイターの画風を反映したウェブトゥーン制作を支援。制作工程を効率化し、少人数でのコンテンツ制作を可能にする。
- Renraku Dynamics（フランス）：AIと専用ハードウェアを組み合わせたAIコンパニオン「Konpanion」を開発。人間らしい会話や感情表現を通じ、観光やヘルスケア分野での活用を目指す。

【概要】
●開催期間：令和9年2月8日（月）～2月12日（金）
●詳細：https://drive.google.com/file/d/1pYIX6mA8hV7Mpjh_Ny8yeBbtN-stLUtk/view?usp=sharing
●プログラム問い合わせ：Creative Tech Shibuya 2027 事務局　taiki.iwasaki@sunryse.co（担当：岩崎）

【報道関係の方からのお問い合わせ先】
SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会：　pr@digshibuya.com　／担当：寺西

DIG SHIBUYA 2027 概要

渋谷を訪れる人が街を歩きながら最新のアートやテクノロジーに出会える、都市型フェスティバル。期間中、公共空間や街路、デジタルサイネージ、ライブ会場など、街そのものを開かれた実証実験の場 “Urban Living Lab”とし、出展者と参加者がともに「未来の都市のあり方」を探ります。多様な人や視点が交差するこの場で、「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」ならではの新しいカルチャーを育みます。



●正式名称：DIG SHIBUYA 2027（ディグシブヤ）
●開催日程：令和9年2月11日(木・祝)から2月14日(日)の4日間（予定）
●開催場所：渋谷公園通り周辺エリア ほか
●参加費用：無料（ただし、一部のプログラムは有料）
●主催：SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会・独立行政法人日本芸術文化振興会・文化庁
●共催：渋谷区
●補助：令和8年度 日本博による地域固有文化コンテンツ創出補助事業
（独立行政法人日本芸術文化振興会・文化庁）
●後援：一般財団法人渋谷区観光協会、一般社団法人渋谷未来デザイン
●URL：https://digshibuya.com
●instagram：https://www.instagram.com/digshibuya/

SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会 概要

渋谷にある150を超える文化・エンターテインメント施設を区の文化的な資産として位置づけ、AI、Web3、XRなど先端技術を取り入れた施策を実施支援することで、その魅力を国内外に伝え、文化・観光・産業活性化を図ることを目的につくられた実行委員会。
オフィシャルイベントの他、海外から誘致したイベントなどを通して、区民・来街者が、気軽にアートや最新テクノロジーに触れる機会を創出し、発信しています。

【公募に関するお問い合わせ】
SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会事務局
メールアドレス：sct@sib.tv

【報道関係の方からのお問い合わせ先】
SHIBUYA CREATIVE TECH実行委員会： pr@digshibuya.com ／担当:寺西